

中学部

年間指導計画

国語

令和 6 年度 年間指導計画

令和 6 年度 中学部 3 学年（Ⅱ 課程A-a b） 国語科 年間指導計画

配当 時数	児童生徒について	担当者	教科書/副教材
140	3 学年 Ⅱ 課程A-a b	別紙記載	国語☆☆☆☆ 等

年 間 目 標	(知及技)日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。《中学部 2 段階》 (思判表力)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする《中学部 2 段階》 (学・人)言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。《中学部 2 段階》			
------------------	---	--	--	--

学 期	時 数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学 期 （ 5 2 ）	8	(知及技)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うことができる。《中学部 1 段階》 (思判表力)相手や目的に応じた話し方で話すことができる。《中学部 1 段階》 (学・人)相手を意識しながら丁寧な言葉でやりとりすることができる。《中学部 2 段階》	(知・技)普通の言葉との違いに気を付け、丁寧な言葉を使っている。 (思・判・表)相手や目的に応じた話し方で話している。 (主学)相手を意識しながら丁寧な言葉でやりとりしている。	○自己紹介しよう ○丁寧な言葉で伝えよう	・教科書 P.14[電話を使って伝えよう] ・相手に内容を正確に伝えるため発声や声量に注意しながら話す。 ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方など、表現の工夫について考える。 ・丁寧な言葉遣いだけでなく、電話での適切な話し方などマナーについても学習する。
	20	(知及技)長音、拗音、促音、撥音の正しい読み方や書き方を知ることができる。《中学部 1 段階》 (思判表力)自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。《中学部 1 段階》 (学・人)長音、拗音、促音、撥音を正しく読んだり、書いたりして日常生活で活用できる。《中学部 2 段階》	(知・技)長音、拗音、促音、撥音の読み方や書き方を理解している。 (思・判・表)丁寧に読み返し、間違いに気付いて正している。 (主学)進んで日本語の音節と文字の関係に関心を持ち、書き表そうとしている。	○長音、拗音、促音、撥音の正しい読み方、使い方を知ろう・書いてみよう	・教科書 P.16～17[言葉のページ] ・日常生活や社会生活で用いられる長音、拗音、促音、撥音を含む語句や文を読んだり、書いたりする。 ・拗音等を書く時はマス目に留意して書くようにする。 ・自分が書いた一文一文を丁寧に読み返し、間違いに気付いたり、規則性に気付いたりすることができるようにする。
	24	(知及技)アクセント、同音異義語、対義語や同義語、上位語・下位語などを知ることができる。《中学部 1 段階》 (思判表力)日常生活の中で必要な語句や文章などを読み、行動することができる。《中学部 1 段階》 (学・人)身近なものを正しく読んで意味を理解したり、興味のある文章を読むことができる。《中学部 2 段階》	(知・技)様々な語句のまとまりや話し方、書き方による意味の違いを理解している。 (思・判・表)様々な語句を声に出して読み、違いに気付いている。 (主学)言葉の意味を考えたり、興味のある文章を読もうとしている。	○声を出して読んでみよう ○言葉の意味 ○仲間の言葉	・教科書 P.18～21[言葉のページ] ・日常生活で用いられる語句や文章を、読み方の違いに気を付けて音読する。 ・日常生活に身近なものを他にも取り上げ、お互いに発表するなどして活用できる語句を増やしていくことができるようにする。 ・繰り返し音読することで、言葉の意味を考えながら、興味のある文章を読むことにつなげていけるようにする。

令和6年度 年間指導計画

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
2 学期 (5 6)	18	(知及技)簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した紀行文があることを知ることができる。《中学部1段階》 (思判表力)簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子などを想像したり、考えたりすることができる。《中学部1段階》 (学・人)読書に親しみ、興味がある本や感想をお互いに伝え合うことができる。《中学部2段階》	(知・技)本には物語や紀行文など様々な種類があると理解している。 (思・判・表)文や文章から情景や場面の様子などを想像したり、考えたりしている。 (主学)興味がある本や感想を身近な人へ伝えようとしている。	○紀行文を知ろう ○本に親しもう	・教科書P.22～26[日本を旅して] ・教科書P.27～28[本に親しもう] ・内容に応じて適宜、写真を補足したり、映像を見せたりするなどして文章の理解を深める。 ・行ってみたい場所や気になった場所についてお互いに発表する。 ・興味がある本やその面白さを伝える読書郵便のやり取りをする。
	18	(知及技)事柄の順序など、情報と情報との関係について知ることができる。 《中学部1段階》 (思判表力)様々な文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像することができる。《中学部2段階》 (学・人)文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすることができる。《中学部2段階》	(知・技)物語のあらすじや場面の展開に気付いている。 (思・判・表)時間的な順序を追って場面を理解し、登場人物の気持ちを想像している。 (主学)文章を読んで分かったことを伝えたり、感想を表現している。	○物語文を楽しもう	・教科書P.54～57[オオカミと羊飼い] ・教科書P.58～63[ねぼうしたねこ] ・文中に出てくる語句を丁寧に確認したり、発問したりしながら、物語のあらすじや展開が整理できるようにする。 ・挿絵を参考にして、場面の様子や登場人物の行動を追い、時間の経過や場面の展開を捉える。
	10	(知及技)一文の中で主語と述語の関係やつながりについて知ることができる。 《中学部1段階》 (思判表力)文の構成、語句の使い方に気を付けて書くことができる。《中学部1段階》 (学・人)様々な場面で主語と述語を意識して物事を考えたり、伝え合おうとすることができる。《中学部2段階》	(知・技)主語と述語の関係やつながりに気付いている。 (思・判・表)文の構成、語句の使い方に気を付けて書いている。 (主学)主語と述語を意識して物事を考えたり、伝え合おうとしている。	○主語と述語	・教科書P.92[言葉のページ] ・「何が どうする」「だれが どうする」「何は どんなだ」の例文を音読し、語句と語句のつながりや主語と述語の関係を考える。 ・基本的な一文には語句をつなぐ「が」「は」があり、その前は主語、後は述語であることに気付けるようにする。
	10	(知及技)挨拶状に書かれた語句や文から基本的な形式や季節に応じた表現などについて知ることができる。《中学部1段階》 (思判表力)伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめることができる。《中学部1段階》 (学・人)適切な内容を考え、身近な人に手紙を書くことができる。《中学部1段階》	(知・技)基本的な形式や季節に応じた表現などを理解している。 (思・判・表)伝えたい事柄を考え、書く内容をまとめている。 (主学)相手に応じた適切な内容を書こうとしている。	○手紙を書こう	・教科書P.86～91[手紙を書こう] ・表書きでは宛先、宛名、差出人の住所や氏名の書き方があることを学習する。 ・相手に応じた丁寧な言葉遣いの表現に気付く。 ・実際に手紙を書きたい相手を選び、伝えたい事柄を考えて書く。

令和6年度 年間指導計画

学 期	時 数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
3 学 期 (3 2)	8	(知及技)点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くことができる。《中学部1段階》 (思判表力)自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。《中学部1段階》 (学・人)進んで自分が書いた字で伝えたり、考えたりしようとするができる。《中学部1段階》	(知・技)点画相互の位置関係、点画の長さや向きに注意して書いている。 (思・判・表)書いた語や語句を丁寧に読み返し、正しいものに書き直している。 (主学)進んで自分が書いた字で伝えたり、考えたりしようとしている。	○書字を楽しもう、毛筆に親しもう	教科書P.93[言葉のページ] ・文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、まがり、点」など基本の書き方を確認する。 ・文字を書くときの姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、丁寧に書けるようにする。 ・どの部分に気を付けて書いたかを相互に発表し、周囲の人が読みやすい点画が意識できるようにする。
		(知及技)長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方が分かり、活用している。《中学部2段階》 (思判表力)文の構成、語句の使い方に気を付けて文章を書くことができる。《中学部1段階》 (学・人)間違いに気付いて文章を正しく直そうとしたり、作文をよりよくしていこうとすることができる。《中学部2段階》	(知及技)長音、拗音、促音、撥音、助詞を正しく書いたり、読んだりしている。 (思判表力)文の構成、語句の使い方に気を付けて文章を書いている。 (主学)自分の作文をよりよくしていこうとしている。	○伝わりやすくなるように書こう、原稿用紙の使い方	教科書P.100～105[伝わりやすくなるように書こう] ・「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」を使って構成すること、長音、拗音、促音、撥音、助詞などを正しく書くことなどに留意し、内容がより伝わりやすくなる作文の方法を学ぶ。 ・原稿用紙の書き方について学ぶ。
	14	(知及技)主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解することができる。《中学部1段階》 (思判表力)自分の伝えたいことを決め、発表することができる。《中学部2段階》 (学・人)相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつことができる。《中学部2段階》	(知・技)主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解している。 (思・判・表)伝えたいことを決めて、発表している。 (主学)それぞれの発表する内容を聞いたり、質問したりしている。	○自分の夢を話そう	・教科書P.106～108[自分の夢を話そう] ・題材の内容を整理するポイントを示し、話の大体を捉える。 ・「私は～です。その理由は～だからです」など定型文に沿って自分の夢について考え、発表する。発表を振り返って相互に質問したり、良かった点を伝え合う。

令和6年度 年間指導計画

学 期	時 数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
年 間 を 通 し て		(知及技)日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、日本の言語文化に親しむことができる。《中学部2段階》 (思判表力)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができる。《中学部1段階》 (学・人)いろいろな図書に親しんで言葉がもつよさに気付いたり、思いや考えを伝え合ったりしようとするができる。《中学部1段階》	(知・技)生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、日本の言語文化に親しもうとしている。 (思・判・表)人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめようとしている。 (主学)言葉がもつよさに気づき、いろいろな図書に親しんで、思いや考えを伝え合おうとしている。	○身近な語句 ○出来事をまとめよう、発表しよう ○読書、本の読み聞かせ ○検定試験に向けた学習 ○沖縄の郷土作品鑑賞	・生活で見聞きする身近な語句などを学習する。平仮名、片仮名、漢字を使って書いたり、書いたものを読んだりする。 ・一日を振り返って出来事をまとめたり、発表したりする。 ・興味のある本を選んで読書したり、本の読み聞かせを聞いたりする。 ・日本漢字能力検定など一般的な国語の知識が試される検定試験の内容に取り組む。 ・現在でも活用されているうちなぐちや沖縄の言語文化に関わる語句、沖縄の郷土作品の紹介をする。
	留意点	個々の活動の進捗に合わせて、個別の支援や発展的な課題の提示を行う。			

中学部

年間指導計画

数学

配当時数		児童生徒について		担当者	教科書/副教材
140		3 学年 II 課程A-aグループ		別紙記載	数学☆☆☆☆☆
年間目標		(知及技) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。《中2段階》 (思判表力) 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。《中2段階》 (学・人) 数学的活動の楽しさや数学の良さに気づき、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。《中2段階》			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	14	(知及技)3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができる。また、それらの筆算の仕方を知ることができる。《中2段階》 (思判表力)数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考えることができる。《中2段階》 (主学) 筆算の仕方やよさがわかり、日常生活で活用することができる。《中2段階》	(知・技)3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができています。また、それらの筆算についての仕方を知っている。 (思・判・表) 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考えている。 (主学) 筆算の仕方やよさがわかり、日常生活で活用しようとしている。	「数と計算」 ・1000より大きい数 ・数の大きさの比べ方 ・10倍、100倍の大きさの数 ・10に分けた数 ・数のいろいろな表し方 ・3桁の数の計算 ・4桁の数の計算	・教科書 p 4-9 ・教科書 p 10-15 ・教科書 p 26-33 ・教科書 p 34-36
	38	(知及技)1位数と1位数との乗法の計算ができ、それらを適切に用いることができる。《中2段階》 (思判表力)数量の関係に着目し、計算について関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすことができる。《中2段階》 (学・人)計算の仕方やよさがわかり、日常生活で活用することができる。《中2段階》	(知・技)1位数と1位数との乗法の計算ができています。 (思・判・表)数量の関係に着目し、計算について関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだしている。 (主学)計算の仕方やよさがわかり、日常生活で活用しようとしている。	「数と計算」 ・かけ算	・教科書 p 40-51

2 学 期	24	(知及技)除法が用いられる場面や意味について理解し、式に表したり、読み取ったりすることができる。《中2段階》 (思判表力)数量の關係に着目し、計算について関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすことができる。《中2段階》 (学・人)乗法と除法の關係について知り、日常生活に生かすことができる。《中2段階》	(知・技)除法が用いられる場面や意味について理解し、式に表したり、式を読み取ったりすることができる。《中2段階》 (思・判・表)数量の關係に着目し、計算について関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだしている。 (主学)乗法と除法の關係について知り、日常生活に生かそうとしている。	「数と計算」 ・割り算 ・小数 ・分数	・教科書p52－59 ・教科書p63－66 ・教科書p67－69
	32	(知及技)基本的な図形と関連して、二等辺三角形などを作図を通してそれらの關係に着目し、面積を求めたり角度について知ることができる。《中2段階》 (思判表力)図形を構成する要素及びそれらの位置關係に着目し、構成の仕方を考察して、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すことができる。《中2段階》 (学・人)図形の種類や面積、角度を的確に表現して比較したり、図形の考察に生かすことができる。《中2段階》	(知・技)二等辺三角形などの図形の作図を通してそれらの關係に着目し、面積を求めたり角度について知っている。 (思・判・表)図形を構成する要素及びそれらの位置關係に着目し、構成の仕方を考察して、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すことができる。 (主学)図形の種類や面積、角度を的確に表現して比較したり、図形の考察に生かそうとしている。	「図形」 ・図形（二等辺三角形、正三角形、水平と平行、円、球） ・面積 ・角度	・教科書p74－87 ・教科書p88－93 ・教科書p94－99
3 学 期	20	(知及技)変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができる。《中2段階》 (思判表力)伴って変わる二つの数量の關係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察することができる。《中2段階》 (学・人)日常生活における数量の關係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の關係を考察することができる。《中2段階》	(知・技)変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりしている。 (思・判・表)伴って変わる二つの数量の關係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察している。 (主学)日常生活における数量の關係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の關係を考察している。	「変化と關係」 ・2つの量の変わり方	・教科書 p 100－107

3 学 期	12	(知及技)表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方を理解することができる。《中2段階》 (思判表力)身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現することができる。《中2段階》 (学・人)目的に応じてデータを集めて分類・整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察することができる。《中2段階》	(知・技)表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方を理解している。 (思・判・表)身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現している。 (主学)目的に応じてデータを集めて分類・整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察している。	「データの活用」 ・表と棒グラフ ・折れ線グラフ	・教科書p108－115 ・教科書p116－121
年 間 を 通 し て		(知及技)4位数程度の足し算や引き算の計算や、かけ算九九の暗証、簡単な割り算ができる。《中2段階》 (思判表力)数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすことができる。《中2段階》 (学・人)学習で学んだことのよさに気づき、粘り強く考えたり、よりよく問題を解決しようとしたりすることができる。《中2段階》	(知・技)3位数程度の足し算や引き算の計算やかけ算九九の暗唱ができています。 (思・判・表)計算の仕方を考えたり、かけ算九九の答えを累加で求めている。 (主学)計算問題やかけ算九九の問題に粘り強く考えたり、問題に取り組んだりしている。	「数と計算」 ・足し算 ・引き算 ・かけ算 ・割り算	・プリント学習 ・iPad学習
留意点 引き継ぎ	個々の活動の進捗に合わせて、個別の支援や発展的な課題の提示を行う。				

中学部

年間指導計画

音楽

令和6年度 年間指導計画

令和 6 年度 中学部3年(II 課程A-abグループ)音楽科 年間指導計画

配当時数		児童生徒について		担当者	教科書/副教材
70		3年 II 課程A－ab		別紙記載	音楽☆☆☆☆
年間目標		(知及技)曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて気づくとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。《中1段階》 (思判表力)音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聞くことができるようにする。《中1段階》 (学・人)進んで音や音楽に関わり、協同して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。《中1段階》			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
一学期	9	(知及技)範唱を聴いて歌ったり手話を模倣したり歌詞を見て歌うことができる。《中1段階》 (思判表力)曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わりに気付くことができる。《中1段階》 (学・人)自然な発声でのびのびと歌う喜びを味わうことができる。《中1段階》	(知・技)範唱を聴いて歌ったり手話を模倣したり歌詞を見て歌っている。 (思・判・表)曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わりに気付いている。 (主学)自然な発声でのびのびと歌う喜びを味わおうとしている。	・みんなで歌おう	・教師の模倣をしながら手話を交え、伸びやかな声で歌う喜びを表現する。
	5	(知及技)平和への思いを持ち、歌詞を見ながら曲の雰囲気にあった声量を考えて表現することができる。《中1段階》 (思判表力)曲想に親しみ、曲の雰囲気や歌詞の内容を理解しながら思いを込めて歌うことができる。《中1段階》 (学・人)平和に関する音楽を鑑賞し平和について考えることができる。《中1段階》	(知・技)平和への思いを持ち、歌詞を見ながら曲の雰囲気にあった声量を考えて表現している。 (思・判・表)曲想に親しみ、曲の雰囲気や歌詞の内容を理解しながら思いを込めて歌っている。 (主学)平和に関する音楽を鑑賞し平和について考えようとしている。	・平和学習のうた	・平和について考える機会とし、歌詞に込められた思いを感じ取りながら歌う。
	12	(知及技)音符や休符について学習し、それを用いてリズムを表現できる。《中1段階》 (思・判・表)曲の雰囲気に合ったリズムやテンポで身体表現できる。《中1段階》 (学・人)教師や友達と一緒に身体表現を楽しむことができる。《中1段階》	(知・技)音符や休符について学習し、それを用いてリズムを表現している。 (思・判・表)曲の雰囲気に合ったリズムやテンポで身体表現している。 (主学)教師や友達と一緒に身体表現を楽しもうとしている。	・リズムに合わせて表現しよう	・音楽に合わせて色々なパターンのリズム打ちや身体表現を楽しみながら、音符や音価についての簡単な学習を行う。

令和6年度 年間指導計画

二 学 期	10	(知及技)範唱を聴いて歌ったり手話を模倣したり歌詞を見て歌うことができる。《中1段階》 (思判表力)曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わりに気付くことができる。《中1段階》 (学・人)自然な発声でのびのびと歌う喜びを味わうことができる。《中1段階》	(知・技)範唱を聴いて歌ったり手話を模倣したり歌詞を見て歌っている。 (思・判・表)曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わりに気付いている。 (主学)自然な発声でのびのびと歌う喜びを味わおうとしている。	・歌い方を工夫しよう	・歌詞の内容を理解し、姿勢に気をつけながら表情豊かに歌う。
	6	(知及技)音楽に合わせて、様々な動きを組み合わせる身体表現することができる。《中1段階》 (思判表力)曲や物語のイメージに合う表現を工夫することができる。《中1段階》 (学・人)友達と協力しながら音楽に合わせて身体表現することができる。《中1段階》	(知・技)音楽に合わせて、様々な動きを組み合わせる身体表現している。 (思・判・表)曲や物語のイメージに合う表現を工夫している。 (主学)友達と協力しながら音楽に合わせて身体表現しようとしている。	・音楽劇をしよう	・曲の雰囲気や歌詞の内容に気を付けながら歌う。 ・曲の雰囲気や歌詞の内容に気を付けながら鑑賞する。
	6	(知及技)郷土の音楽や楽器(三線)についての基礎的な知識や奏法を身に付けることができる。《中1段階》 (思判表力)郷土の音楽の特徴的な音色やリズムを味わい表現することができる。《中1段階》 (学・人)郷土の音楽の特徴を感じながら鑑賞することができる。《中1段階》	(知・技)郷土の音楽や楽器(三線)についての基礎的な知識や奏法を身に付けている。 (思・判・表)郷土の音楽の特徴的な音色やリズムを味わい表現している。 (主学)郷土の音楽の特徴を感じながら鑑賞している。	・郷土の音楽	・郷土の音楽に興味関心を持ち、三線の基本的な扱い方や奏法を学ぶ。 ・郷土の音楽を鑑賞する。
	6	(知及技)様々な楽器に親しみ基本的な奏法を身に付けることができる。《中1段階》 (思判表力)曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫することができる。《中1段階》 (学・人)教師や友達と一緒に演奏する楽しみを味わうことができる。《中1段階》	(知・技)様々な楽器に親しみ基本的な奏法を身に付けている。 (思・判・表)曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫している。 (主学)教師や友達と一緒に演奏する楽しみを味わおうとしている。	・楽器を演奏しよう	・簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色や響きなどに気を付けて演奏する。

令和6年度 年間指導計画

三 学 期	5	(知及技)世界の音楽や楽器についての基礎的な知識を身に付けることができる。《中1段階》 (思判表力)世界の音楽と楽器の特徴的な音色やリズムを味わい言葉で伝えることができる。《中1段階》 (学・人)世界の音楽の特徴を感じながら鑑賞することができる。《中1段階》	(知・技)世界の音楽や楽器についての基礎的な知識を身に付けている。 (思・判・表)世界の音楽と楽器の特徴的な音色やリズムを味わい言葉で伝えている。 (主学)世界の音楽の特徴を感じながら鑑賞しようとしている。	・世界の音楽と楽器を知ろう	・世界の楽器に触れる体験をする。 ・世界の音楽を鑑賞する。
	8	(知及技)教師の示範をよく見て手話を模倣したり模唱することができる。《中1段階》 (思判表力)曲想に親しみ、曲の雰囲気や歌詞の内容を感じながらのびのびと歌うことができる。《中1段階》 (学・人)卒業に関連する曲を聴き曲想や歌詞の雰囲気を味わうことができる。《中1段階》	(知・技)教師の示範をよく見て手話を模倣したり模唱している。 (思・判・表)曲想に親しみ、曲の雰囲気や歌詞の内容を感じながらのびのびと歌っている。 (主学)卒業に関連する曲を聴き曲想や歌詞の雰囲気を味わっている。	・卒業の歌	・歌詞の内容を味わいながら思いを込めて歌う。 ・色々な卒業に関連する曲を鑑賞する。
	3	(知及技)既習曲の曲名や曲の特徴を覚えることができる。《中1段階》 (思判表力)1年間の活動を振り返り曲の良さや表現の楽しさを感じることができる。《中1段階》 (学・人)みんなの前で演奏したり感想を発表することができる。《中1段階》	(知・技)既習曲の曲名や曲の特徴を覚えている。 (思・判・表)1年間の活動を振り返り曲の良さや表現の楽しさを感じている。 (主学)みんなの前で演奏したり感想を発表している。	・1年間のまとめ	・既習曲を演奏し、頑張ったことを発表する。
	年間を通して	(知及技)曲や演奏の良さを感じながら聴くことができる。《中1段階》 (思判表力)様々なジャンルの音楽の音の響きの特徴やリズムパターンなどの面白さを感じることができる《中1段階》 (学・人)様々なジャンルの音楽に触れてその楽しさに気付くことができる《中1段階》	(知・技)曲や演奏の良さを感じながら聴いている。 (思・判・表)様々なジャンルの音楽の音の響きの特徴やリズムパターンなどの面白さを感じている。 (主学)様々なジャンルの音楽に触れてその楽しさに気付いている。	・いろいろな音楽を聴こう	・様々なジャンルの音楽に触れ、音楽体験を広げる。 ・速度の違いに気を付けて音楽を鑑賞する。
留意点 引き継ぎ		・個々の活動の進捗に合わせて、個別の支援や発展的な課題の提示を行う。			